

あいさつでみんな笑顔！

わたしは、いつもパパとママにおはようをいいます。みちで、おともだちがあいさつしてくれると、うれしかったです。こうちょうせんせいにあうと、どきどきするけど、おはようがいえるようになりました。
(南野川小学校1年 やまさき まな)



わたしは、いつもちいきの人がまい日手をふって、あいさつをしてくれます。わたしはちいきの人とあいさつをしたらきもちがはれたのでこれからもあいさつをいっぱいして、みんなのえがおを見たいです。
(南野川小学校2年 福島 里桜)

あいさつをすることで、気分が良くなったし、みんなが関わり合えることは、良いことだと思います。このあいさつ運動をきっかけに、話したことがない人にあいさつできるので、とても気分が良かったです。
(野川小学校5年 関 愛和)

あいさつ運動をすると、つかれやだるさがふきとんととても気持ちがいいです。これからもあいさつ運動を積極的にがんばります。
(野川小学校5年 白井 波平)

僕はあいさつ運動をすることが良いと思います。一、二年生の時は人にあいさつされても返せませんでした。でも今ではあいさつ運動のおかげで、自らあいさつできるようになったので、あいさつ運動を続けたいと思います。
(西野川小学校6年 前田 将英)

あいさつは、老若男女問わず誰もが言葉と気持ちでコミュニケーションの取れるものなので、地域全体を明るく元気にしてくれます。僕も、誰かにあいさつをかけられた時には、今日の気分や調子も良くなるので、これからも積極的にします。
(西野川小学校6年 山田 悠斗)



南野川小学校 今日も笑顔と笑顔

あいさつで えがおひろがり ポッカポカ！

西野川小学校 1年生

あいさつうんどうのとき、せいもんで、げん気いっぱい大きなこえでやりました。学校のみんなからあいさつをもらったので、ぼくのこころは、あたたかくなってきました。だから、こんどは、じぶんからいろいろな人にあいさつをしていきたいです。

(ひらいわ かいとさん)

ぼくは、あいさつをすると、じぶんもすごくうれしいです。けさ、きょうとう先生にあいさつをしたら、きょうとう先生のかおは、すごくうれしそうでした。ぼくは、そのかおであいさつがすきになりました。だから、ぼくはあいさつをつづけたいです。

(たかぎ たくみさん)

わたしがあいさつをするときに、一つだけ気を付けていることがあります。それは、えがおです。えがおがなければ、えがおがなくなってしまいます。だから、わたしは、これからも、えがおで「おはようございます。」とあいさつをしていきたいです。

(いとう もねさん)

H30.12 (新規)

あいさつの力

西野川小学校 四年 高野 莉花

私は今年のあいさつ運動で、人とあいさつをすることの楽しさに気付きました。あいさつをするといつもとよりその人と話した感覚になります。また、返事をもらうと、うれしかったり、楽しかったりします。

私はもともと人とたくさん話すことが苦手です。ですが、あいさつをするようになってから、どんどん友達となじめるようになって、友達とたくさん話をできるようになりました。あいさつができるようになってから、遊びに行くこともふえて、たくさんのことができるようになりました。私はあいさつの力で人は変わるのだと思いました。

ですが、全く知らない人が相手だと、私は今もうまくあいさつを返せません。いつもあいさつをしている学校の先生や、友達とは違います。どうしても相手の目を見れず、声も小さくなってしまいます。でも、何度もあいさつ運動をやったことで、よく知らない人が相手でも、少しずつ勇気をもってあいさつできるようになってきました。

私はあいさつの力でたくさんの成長をしてきました。これからも、いろいろな人とのあいさつを通じて成長していきたいです。

あいさつは 心の中にある宝物!

—野川地域の三つの小学校の児童の声—

西野川小学校

✳ 私はあいさつ運動が気持ちいいと思いました。なぜなら私は以前、おはようと言う勇気がなくてただおじぎをして通っていただけでした。でもこのあいさつ運動を通して、あいさつができるようになってうれしかったです。(5年 逸見 百香)

✳ 私は、あいさつ運動を通して、地域の人たちと親しくなれたと思います。小さい時は勇気がなくて、なかなか近所の人にあいさつが出来なかったけれど、今はあいさつすると笑顔で返してくれて、とても温かみを感じます。(5年 佐藤 彩奈)



地域の人にもあいさつ!



PTAや地域の人も参加!

南野川小学校

✳ この企画運営委員会では、南野川小のみんなにあいさつ運動をしてもらうように声をかけています。その中で大切にしていることは、楽しくやってもらうことです。「遊びたい」、「めんどくさい」気持ちはいずれにでもあります。でも、一度だけでも参加してもらって、楽しさを知ってもらいたいです。だからこれから声かけます。(6年 中平 花奈)

✳ 私は、今年あいさつ運動をやって、一年生から六年生までのみんなとあいさつを通して仲良くなることができました。あいさつをする事で誰とでも仲良くできることが、とても良い事だと思いました。

私は今年企画運営委員会に入って、あまりできなかったあいさつができるようになって嬉しいです。中学生になっても頑張りたいです。(6年 安本 愛琉)



おはようございます!



民生委員も参加!

野川小学校

✳ あいさつには、まほうがあります。それは「自分も相手も気分が良くなる」ことです。私は、あいさつが好きです。あいさつのまほうは元気がないときも私に元気をくれます。あいさつをしないとしないでは、とても変わってきます。あいさつは人と人をつないでくれるとても大切なものです。(6年 関 愛和)

✳ あいさつには、とてもすごい力があります。朝、「おはようございます。」と言うと、気持ちがすっきりした朝をむかえられます。また相手もうれしくなって、仲良くなれるかもしれません。それに、「ありがとう」もあいさつです。あいさつは、誰でも心の中にある宝物です。(6年 松原 萌葉)



ふれあい委員も!



民生児童委員もおはよう!

ウォーキングの人も思わずにっこり

宮前区まちづくり協議会では、区内のまちづくり活動を知っていただくことを目的に、市民活動団体やまちの施設・資源等を紹介する区民参加の「まちづくりウォーキング」を年2回開催しています。今回、私たちが野川台を歩いたのは、紅葉始まる10月27日の午後でした。野川老人いこいの家で、「あいさつ運動」の主旨を説明いただき、そこから梅の木坂、影向寺、野川神明社へと散策。まち歩きも終盤の西藏寺の辺りに差しかけた頃、下校中のすれ違う児童・生徒の「こんにちわ!」と元気な声。それも一人ではなく、急坂を登ってくる子ども達が、次から次に挨拶してくれます。参加された区民の方々も、「こんにちわ!」と思わずニッコリ。野川ウォーキングは、心温まるこの素敵な活動が定着していることを実感し無事終了。また参加したいとの声を多数いただきました。気持ちのよいあいさつが響く野川は温かな魅力がいっぱいでした。(宮前区役所地域振興課 加藤)



西藏寺前にて

(6) 野川中学校の生徒の取り組み (あいさつと地域との係わり、絆づくり)

H22.3 4号-3

生徒会活動を通じて

野川中学校生徒会副会長 伊藤 嵩人

僕はあいさつ運動を通して感じたことがいくつかあります。その一つはあいさつの大切さです。当たり前のことですが、小学生から中学生になるうえであいさつをする人が急速に減りました。だから僕は、できるだけあいさつをしてくれる人を増やす努力をして、あいさつが誰でもできる学校をつくっていきたいです。

野川中学校では、毎週、週番活動が行われています。各クラスから2名ずつ参加してあいさつをしていて、最近では、たくさんの人たちが週番活動に参加してくれています。僕はあいさつ運動に参加してたくさんの人にあいさつすることができて本当に良かったです。

あいさつ運動に参加してくれた人たちに感謝をしています。



週番も参加するあいさつ運動

H26.10 13号-3

必要不可欠なことば！

野川中学校 生徒会本部 3年 千葉 玄

「あいさつ」、それは、何をすることも不可欠な言葉だと思います。あいさつができれば相手に嫌な思いをさせることがなく、お互いが気持ち良く過ごすことができます。一日の始まりにこのような気持ちになることができれば、自分も、相手もとても良い事だと思います。また、あいさつはお互いを気持ち良くさせるだけでなく、コミュニケーションを取るためにも必要なものだと思います。

野川中学校では、毎週サミットメンバーや生活委員会を中心にあいさつ運動を行っています。また、このあいさつ運動を通して、この野川中学校を明るく、そして活気のある学校にしていくことができれば、良いと思っています。

H26.3 12号-3

みんなに明るさを届けるひとつの手立て

野川中学校生徒会 2年 千葉 雄大

「おはようございます」朝、学校に入ると明るい声であいさつが聞こえてきます。野川中学校のあいさつ運動は、全校生徒が行っている活動のひとつです。私自身、この学校に入学したとき、通路で、「こんにちは」とあいさつをされました。この時、なんともいえない優しい気持ちが心に伝わってきました。野川中学校での「伝統」ともいえるあいさつは、他にも人を明るくします。生活委員会を主催に行っている朝のあいさつ運動は、最も通学してくる人の多い時間に、校門であいさつを行っています。明るいあいさつの声が、良い一日を届けていて、自分自身もととても元気になります。このように、あいさつ運動は、明るさを届ける一つの手立てなのです。

H29.10 19号-3

「さよならプロジェクト」の立ち上げ！

野川中学校 部活動長3年 和田 百音

私たちは、日頃から活動場所や必要な道具などを、学校から貸してもらったり買ってもらい、当たり前のように部活動をしています。みんなから応援される部活動になるためには全力で部活動に取り組むことも勿論大切ですが、他に何か学校のために出来ることはないかと考えた時に思いついたのが、「さよならプロジェクト」でした。最終下校10分前に各部活動が日替わりで正門に集まり、下校する生徒に「さよなら」と挨拶をする活動です。当初は元気に挨拶してくれるのか不安でしたが、参加してくれたどの部活動も元気よく「さよなら」とあいさつをしてくれて、良い雰囲気の下校時のあいさつ運動をすることができました。これからも「さよならプロジェクト」を続けていくことで、部活動以外の多くの場面でひとり一人が自然に挨拶ができる学校にしていきたいです。



朝のあいさつ！



さよならプロジェクトの立ち上げ！

東日本大震災復興支援プロジェクト立ち上げ

AKB48「恋するフォーチュンクッキー」に乗せて！

一昨年の夏のことです。野川中学校のひとりの生徒が、友達の家族と一緒に東北に行った際、東日本大震災の復興の様子を目の当たりに見て衝撃を受けました。

自分たちも小さいことでも、お役に立てることがないものか思いめぐらせながら帰路に！。その思いを32期生徒会本部が音頭を取り、学校全体で復興支援プロジェクトを立ち上げたのが取組みの始まりです。

芸術祭などでの色々な経過を経て、昨年33期生徒会本部も引き続き先頭に立って、被災地の方に少しでも前向きに頑張ってもらいたいという思いと、遠く離れた川崎に住む私たちも震災地のことを考えていることを伝えるため、各クラスからの声を編集した「メッセージアルバム」に併せて、全校生徒がAKB48「恋するフォーチュンクッキー」の歌に乗せ、心を一つにして踊った「ミュージックビデオ」づくりに挑戦。1週間という短い練習時間でしたが、有志だけでなく全校生徒が朝学活と昼休みなどを利用して見事完成させました。

今年に入り、このふたつを被災地出身の当校の先生に託し、陸前高田市立第一中学校に直接お渡ししました。ひとりの生徒の思いを全校生徒一人ひとりの思いとした“感性と若い行動力”は多くの人に感動を与えています。

プロジェクト企画・運営

野川中学校第32、33期生徒会本部

「社会を明るくする会」宮前地区推進委員会からの表彰（H26. 2.20）



全校生徒、AKB48「恋するフォーチュンクッキー」に乗せて！

新しい絆づくりにチャレンジ！

生徒会と地域との清掃活動を通じて

一昨年のトンネル清掃に引き続き、昨年11月、野川中学校の生徒会と野川中学校区地域教育会議が、タイアップして、宮前消防署の野川出張所の前の道路（権六坂）の清掃に挑戦！

90名近くの生徒と地域の人約60名と一緒に汗をながしながら、ゴミや落ち葉集めをしている光景は、通る人や車の注目を浴びていました。阪神淡路や東日本大震災の教訓として、隣近所との繋がりの大切さが叫ばれて久しいですが、こうした清掃活動は、地域レベルでの具体的な絆づくりそのもので、画期的と受け止めています。そんなユニークな活動について、中学生から、「今回も、たくさんの地域の皆さんと生徒と一緒に地域清掃に取り組むことができました。そして地域の方々との交流とともに、この野川のまちをキレイにできたことを嬉しく思います。これからも、地域との関わりを深くし、さまざまな活動に力を入れて行きたいと思いました。」という声が寄せられました。

（地域教育会議：野川地域の小中学校の先生・PTA、自治会・町内会、地区社協、民生委員、保護司、青少年指導員等で構成）



今日の段どりは！



落葉集め！



野川中学校体育祭、のり面に張られたブロックテーマを背に応援合戦

心が通じ合う「赤い羽根募金活動」!

野川中学校は、近年、生徒会活動やクラブ活動が活発化していると言われていま



フロン太クンと一緒に

す。昨年(2013)の3月11日、未曾有の東日本大震災の直後、生徒会の企画で被災者への支援に役立てればと、校門などで募金活動を行い、犬の散歩の近所の方も、通勤途上の方も、生徒の心意気に動かされ協力している光景がみられました。

また、10月7日の恒例、「赤い羽根共同募金」に際し、生徒会を中心としたサミットメンバー約20名が、川崎フロンターレのマスコット“フロン太クン”と地区社協の方と一緒に、フジスーパーとOKストアの2か所で募金活動を行いました。

“温かいご協力をお願いします”の声に幼稚園帰りの親子連れやお店に来られた方が、足を止め“御苦労さま”、“頑張ってるね”と温かい声かけ。そうした中で生徒たちは、「人の心の優しさを感じるとともに誰かのために何かをすることは、自分も温かい気持ちになれる」と感じていました。(顧問は、多田、熊谷の各先生)

H26.3 12号-4

職場体験で 何かをつかんだ!

今日は、富士見プラザデイサービスセンターでの職場体験の二日目。午前中は、入浴後の髪の毛をドライヤーで乾かす、昼は配膳、午後はレクレーションのゲートボールの時間。ゲームの始めに野川中の沼田さんがお手本を示しゲーム開始。Aさん“500点”のヘルパーさんの声に、参加している30名近い仲間が手をたたき姿に照れくさそうにするお寄り。その間、沼田さんは、お年寄りの視線をもって笑顔でボール拾いに専念していました。



ゲートボールのお手本!

責任者の才川さんから、初日は緊張している様子でしたが、二日目は肩の力が抜けた感じで、お年寄りと接することでなにかを掴んでくれたと思います。受け入れた生徒の日々成長する姿は頼もしいですね。将来の進路選び等の糧になれば喜びですとの温かいお話がありました。

(担当は、鈴木先生)

福祉まつり ボランティアに支えられて!

来て・見て・食べて・参加して!をテーマに宮前第一地区社協主催の「第18回福祉まつり」が春に野川小学校で開催。模擬店、バザー等の他に



車イス 事前の練習

体育館に福祉体験コーナーも設けられ、野川中学校の生徒20名が春休みにもかかわらず、ボランティアとして参加して下さいました。車椅子の体験、自助具の展示・体験などにベテランの職員の助手として、福祉コーナーを笑顔で支えて下さいました。そうした中でお年寄りや障害をもつ方へ自分たちはどう向き合い、どうサポートしていったらよいのか、その一端なりを学んでいたことがひたむきの活動からうかがえました。

H30.10 21号-3

吹奏楽部 東関東大会に栄えある出場

8月7日に県大会で金賞に輝いた野川中吹奏楽部は、9月9日、念願の東関東大会に出場。課題曲の後の自由曲「祈り」の演奏で、戦争の悲しさ、むなしさを冷静で、重みのある表現に努め、高い評価をいただきました。その陰には、大会までの1か月の間に猛練習を積み重ね、音の正確さに加え自然な響きがスマートに“聴衆の心”に伝えようとする思いがあったからです。吹奏楽部は、技術向上のため大会での演奏も大事にしていますが、中学校の吹奏楽部の存在は、地域に愛され育てられるところにあります。その意味でも、誰でもが楽しめるような童謡から、演歌、ジャズ、クラシック等幅広い演奏に心がけ、参加者と気持ちが一体となった暖かいコンサートづくりを目指しています。この11月までに、地域で14回の出演の機会を得ているとのことですが、部員の皆さんと顧問の先生の日々の努力で、私たちの身近な生活の場で一緒に楽しめることは、本当に素晴らしいことです。(事務局)



地域に愛される演奏!

(7) 地域に根ざし、愛される「西野川小学校おやじの会」の活動

H21.3 2号-3

勇壮な地域の祭り “どんと焼き”

「ドーンという青竹の節が燃える音！時折竹の節が空に舞う。それをこどもたちが、歓声をあげ拾い合う」。毎年、正月に西野川小学校の校庭で300名近い親子が参加して開かれる「どんと焼き」の光景です。

竹とカヤで組んだ高さ4mもの円錐を立て、門松やしめ縄を持ち寄り焼き、残り火で焼いたモチを食べると一年無病息災になると言われる行事が野川に復活。そのきっかけは、同小学校のお父さんたちの「おやじの会」が、こどもたちの糧になるプレゼントができないものか考え、大きくダイナミックな動きと色合いを出す“炎”に行き着いたのです。今年で八回目を迎えましたが、地域の方の協力があってこそ長続きできるものと言えます。（おやじの会の会長は 荻原健一氏）



勇壮などんと焼き

H26.10 13号-1

“親子でうどん” おやじの会奮闘！

「麺棒から生地がはみ出すくらい押して！伸ばして！」、「もっと力を入れて！そうそう！」とおやじの会の名物おじさん秀ちゃんのいつもの名調子の大きな声が、調理室一杯に響く。今年も、「親子でうどんづくり」が6月上旬、西野川小学校で午前、午後の二組に分かれて開かれた時の一コマです。

親子30名参加。初めて自分で粉から、本物のうどんを作り満面笑みの子どもたち、久し振りに子どもと楽しい時を過ごせてほっとしたパパ、これで夕食づくりの大変さがわかったでしょと言うママ、みんなそれぞれの思いの楽しいうどんづくりの一日でした。会長の佐藤さんも、美味しそうに食べている親子の様子を見ながら、「腰のあるうどんづくりには、パパやママの力が必要なんですよ！」とにっこり。

結成18年目のおやじの会は、楽しみをもっと、子どもたちに背中を見せながら、家庭、学校、地域のつながりを大切にしています。

（会長は、佐藤達博）



押して、伸ばして！

H24.3 8号-1

地域の“防災拠点”を皆で知ろう

——「おやじの会」の新たな絆づくり——

東日本大震災が起きてから早一年。誰しもが、また地震が起きたらどうしよう！携帯も繋がらず家族との連絡もとれない！お父さんも帰宅困難者になり、近所のお年寄りへの手助けも当てにできない！そうした不安を少しでも解消できればと「おやじの会」は、「自分の身は自分で守り、地域のことは皆で！」の基本に立ち返り、温めてきた“防災訓練”を形を変えて実施。

昨年11月、会のメンバー10名の指導の基で、親子24組と西野川小学校の5名の先生、合わせて約70名が三班に分かれ、和気あいあいに野川地域を探検。消防署や交番はもとより、公衆電話、給水施設等の地域防災拠点などを“発見”し、マップに落とすなど楽しみながら体得し合うユニークな学習を試行。その後、三角巾の使い方や区役所提供のアルファ米の試食体験も実施。斎藤会長は、学校を舞台に地域と親子が連携しながら、できたら来年はもっとゲーム感覚を取り入れ、楽しみながら“防災活動の日常化”に繋がるよう工夫していきたいと抱負を語っていただきました。

（「おやじの会」斎藤英純会長談）



H30.10 21号-1

ペットボトルロケット発射！

親子で味わったつくる楽しさ！

西野川小学校おやじの会のメイン事業の「ペットボトルロケット大会」が、7月下旬に、主に1年生から3年生の親子60名を対象に開催。当日38度の猛暑の中、校長先生も参加。子どもたちはいつもと違って何となく浮き浮きした振る舞い。一方お父さん方も「子どもに誘われて、初めて参加したが、悪戦苦闘ですね！」また「4回目の挑戦だけど、前回体育館まで飛ばしたのに、今回はなかなかうまく作れないね！」さらには「子どもと一緒にいれるのがなにより嬉しいですね！何だか子どもに遊んでもらっている感じがな！（笑）」などの声も聞かれました。

工作後、みんな揃って校庭に移動、会の名物男“佐藤さん”の“おやじ”の一声のもとに、本番のロケットの発射に挑戦！。上段まで飛んだロケット、どういう訳か途中で失速したロケットなど発射の度に親子の歓声が校庭に響き渡りました。親子でつくる楽しさを味わった心温まる一日でした。（事務局）



“おやじ”の一声！



準備完了！

(8) 自治会のあいさつ運動の発端と目指すところ

H19.10 自治会回覧

H20.12 創刊号-1

「地域でのあいさつの運動の提唱」

小学生の「地域の人とあいさつを交わしたい！」
(提案) に応えて (H19、9野川台自治会幹事会決定)

あいさつ運動のきっかけと目指すところ

- 西野川小学校で、今年開催されました「地域の人と・先生・児童の会議」（教育推進会議）で、5年生から「地域の人とあいさつを交わしたい」という提案がありました。
- 早速、この児童の声を大事にすべく野川台自治会で取り上げ、「子どもとのあいさつ」をみんなですることになりました。
- もちろん、西野川小学校の校長先生も野川中学校の校長先生も「防犯パトロール」や校門での「あいさつ運動」（月2回）と併せて実施することに大賛成です。地域と学校が連携し合って推進していくことになりました。
- あいさつといっても、登校や下校の時などに家の前や、街の中で、無理のない形で小学生・中学生に、例えば「おはようございます」、「こんにちは」「お帰り」、「疲れたかな!」といった呼びかけを気軽に行っていければと考えているものです。
- ご承知の通りあいさつ運動は、人と人との心を結ぶ源とも言われています。日々の笑顔での声掛けが、いろいろなことにつながります。具体的には次のようなことが挙げられます。
 - (1) 子どもの明るく健やかな成長につながる
 - (2) 子どもの非行防止や交通事故防止につながる
 - (3) 不審者や泥棒への抑止機能等犯罪の防止につながる
 - (4) 人々の見守りや支え合いの地域福祉の土壌づくりやコミュニティー形成につながる
- 当面は、野川台自治会と西野川小学校と野川中学校の三者が一緒になって、とりあえず無理のない形で、できるところから「あいさつ運動」を進め関係する方々のご理解を頂きながら、その輪を少しずつ広げていければと考えています。
- 皆様のご理解とご協力をお願いします



野川中学校3年 中畑 志織 作

(あいさつ運動提唱者)
西野川小学校、野川中学校
野川台自治会、民生・児童委員

● **学校と地域が一緒になってあいさつ運動を！**
● 野川台自治会長 青木 利治
●

昨年、児童の声を発端に始まりましたあいさつ運動は、校門での「朝のあいさつ運動」と「パトロールを通じたあいさつ兼防犯活動」を学校と地域とが協力し合いセットで実施するところまで進んでまいりました。これも皆様のご理解とご協力の賜と感謝申し上げます。

あいさつは、不思議な力を持つと運動を通じて感じています。人と人との心をつなげ、また犯罪の予防にもつながることなどから、これからの地域づくりに向けてのひとつの大きな手法になるように思えます。

あいさつを通じて、顔見知りになり、自然と「おはよう」、「こんにちは」と声を掛け合ったり、さらには「どうしたの、元気がないね!」と気遣ったり、注意したりする間柄になっていきます。こどもの健やかな成長はもとより犯罪のない安全で安心なまちづくり、将来つながっていくと受け止めています。

先般こうした私たちの活動を神奈川県募集に応え提案したところ、平成20年度の「県安全・安心まちづくりパイロット事業」に選ばれました。少しずつ浸透してきた運動を、これを契機にさらに西野川小学校と野川中学校と野川台自治会の三者が連携し合うとともに宮前警察署、宮前区役所、地区社協、地区民児協などの協力を得て、公民一体となったあいさつ運動兼防犯活動を進めていきたいと思ひます。みなさまの無理のない形での運動への参加を期待しております。

H20.12 創刊号-4



パイロット事業推進委員会

(9) 地域の人や関係者のあいさつへの思いとその少し先

H20.12 創刊号-4

あいさつの持つ大きな力！

県の西部地域の中学校の話です。授業中に生徒が教室から飛び出し授業にならないという連絡を受け、学校に行ったところ、先生の言うことを全く聞かない状態にありました。これではいけないということで、地域の自治会、民生委員の方々が集まり、なにをしたらよいか話し合いふたつのことをすることになりました。ひとつは朝8時に校門に集まり生徒とあいさつを交わすこと、もうひとつはPTAのお母さんが校内を巡回することです。毎日地道な活動を続けた結果、卒業する頃には混乱していた学校も授業ができるようになりました。

(宮前警察署馬場生活安全課長 推進委員会にて)



H21.10 3号-2



こどもとパトロール隊員

H21.10 3号-2

◆子どもたちとの出会いとつながり

3年前のことです。新しいランドセルを背負った1年生が道で立ち止まっている！ なにか様子がおかしいので近づいてみると、犬の糞を踏んでしまい学校に行けないと、しくしくと泣いているのです！ 本当に胸の痛む光景でした。

翌日から、児童の登校前に散歩方々道路の糞をひとつひとつ拾い始めました。そんな縁で小学校とのつながりができ、こどもたちも総合学習のインタビューに来たり、家に遊びに来るようになりました。遊びに来る時には、必ず2名以上で4時までに訪ねるきまりをみんなで作り、庭の parasol の基で、時には英語をまじえたビンゴゲームなどを、それも上の子が下の子に教えたり、思いやりたりして遊んでいます。その様子はかつて自分が世界をフライトしていた時にアメリカの街でよく見られた心暖まる光景と同じです。

雨の日も風の日も“8・3あいさつ運動”をしていますが、最近はこどもから率先して元気よくあいさつしてくれる場面が多くなり、なんとなく1日が嬉しくなります。

(地域の人 狩谷泰久談)

H21.3 2号-4

あいさつの輪・おせっかいの輪

ある村の話です。その村では「〇さんちの〇〇ちゃんの～」なんて皆が子どものことを知っています。悪いことでもしょうものなら、村中のおせっかいおじさんやおばさんから怒られます。こんなおせっかいができる村では、まず犯罪なんて起きませんよね。

さて西野川小学校では、今年創立30周年目を迎えました。12月には創立30周年記念式典を行います。コンセプトは、30年間への感謝・現在の姿の確認・そして未来に向けた決意とお祝いです。私たちの野川が明るく、楽しく、住みやすい心の故郷であり、おせっかいが自然にできるためにも、あいさつ運動の輪を広げることが、記念事業の柱のひとつとして進めてまいります。

(創立30周年記念実行委員長 西原祥雅)

H22.3 4号-3

● Eyeの愛で察する運動の広がり ●

あいさつ運動で気持ちのいいあいさつが返ってくると元気になります。でも、たとえ元気なあいさつが返ってこなくても、あいさつ運動を続けることは大切だと思います。あいさつを返せないのは、出がけにお母さんに怒られたからかもしれません。なんらかの原因があるなら、なおさらのこと元気な声をかけ、“つらいことがあっても地域の人たちが見守ってくれている”という安心感を与えたいものです。あいさつ運動が大地震でさえも壊せない心のつながりをつくり、温かいまなざし (Eye) の愛で察する運動へと広がっていくことを願います。

(PTAのOB)

H24.10 9号-2



昼間のパトロール隊



夜間のパトロール隊

● ふるさと、わがまち ●

ふるさととは一体何だろうか。

当地に移り住んで50年。ところが一向にここがふるさとという気持ちが湧いてこないのです。理由はさまざまありますが、その一つには子どもの頃の記憶にこの土地が結びつかないことによると思います。これはどうしようもないことですが決して幸せなことでは無かろうと思います。

野川台がわがまちと思えるようにと、自治会が今、取り組み始めました。子供達の要望を「あいさつ運動」という形で受け止め、その第一歩を歩みだしました。この運動を私とあなたがこれからどのようにつなぐか、それがふるさとへの遠くて近い道となることだろうと思います。(事務局)

H23.3 6号-3

標語づくり“第2弾”に寄せて

あいさつでこどもたちも学校も生き生き…。今回も地域の声に応じて1年生から6年生の全クラスそれぞれで“あいさつ運動”の標語づくりにみんなでワイワイ言いながら取り組みました。

あるクラスでは、「あいさつは気持ちがいい」、「心がひとつになった気がする」という声が聞かれました。でも別のこどもから「あいさつをしても返してくれないと、悲しくなる!」という声もありました。たった一言の「おはよう」という言葉、その言葉の持つ意味の大きさを改めてこどもたちから教えられました。児童ひとり一人の思いが込められている標語を、こどもたち、お父さん・お母さん、学校、地域が手を取り合って、あいさつのあふれる素敵なまちづくりに役立ったら嬉しいですね!

(標語をまとめられた桑山先生談)

H27.10 15号-2

(事例)

7月の暑い日の夕方、野川台の交差点付近で、体調を崩された一人暮らしの高齢者が、うずくまっているのを男子高校生が見つけた心配そうに声をかけているところを、通りかかった近所の方二人が、介抱し、支えてあげながら自宅にお連れしました。その後すぐ近所の方々からみかど荘地域包括支援センターに連絡が入り、職員が何度か自宅を訪問したり関係機関等と連絡を取り合い、今は近くの施設で元気を取り戻しているとのことです(ミニネットワークの一例)。



西野川小学校の朝のあいさつ運動

H22.10 5号-3

毎朝の心あたたまる光景

野川中学校の校門の前の坂道を通して小学校に通う子どもがたくさんいます。毎朝その子らに中学校の先生が「おはよう」とか、「今日は何を持っていくの!」とこどもたちの様子を見ながら声を掛けてくださっています。子どもたちも、先生方に笑顔できちっとあいさつをしたり、応えたりしている光景は、ほのほのとした温かさを感じています。多分子どもたちは、中学校に対して、壁というか、ワンステップ高いところというイメージでなく、むしろ親しみを感じているのかなと歩きながら思ったりしています。

(推進委員会にて、西野川小学校PTA副会長)

H28.3 16号-3

あいさつ運動の今までの経緯

- H19. 6 「西野川小学校教育推進会議」で児童から「地域のひとあいさつがしたい!」の声(提案)
- H19. 10 西野川小学校、野川中学校、各PTA及び野川台自治会・民生委員が一体となりあいさつ運動を開始
・「西野川小学校の校門での朝のあいさつ運動」
・「家の前や道でのあいさつ」(個人対応)
- H20. 4 二つのあいさつ運動をセットで実施
(1)「学校での朝のあいさつ運動」
(2)「パトロールによるあいさつ兼防犯活動」小中学校班
- H20. 9 「県安全・安心まちづくりパイロット補助対象」事業となる「パイロット事業推進委員会」開催(学校、警察、区、自治会等)、標語作成「あいさつは心と心のキャッチボール」、広報紙「あいさつ運動の輪」創刊号発行
- H21. 9 県防犯協会長から地域安全活動の感謝状受賞
- H24. 7 「昼・夜間パトロールによるあいさつ兼防犯活動」の拡充、毎月各1回実施、(小学校班、中学校班(新夜間班))
- H26. 9 川崎市制90周年記念奨励賞受賞(あいさつ運動等まちづくり)
- H26. 10 第三回西野川小学校児童標語作成「ひとことで、みんなの顔に花がさく」
- H28. 3 「あいさつ運動の輪」第16号発行

学校と自治会等地域の主な取り組み

- | | |
|---------------------|-------|
| 1 校門での朝のあいさつ運動 | 学校・地域 |
| 2 パトロールによるあいさつ兼防犯活動 | 地域 |
| 3 「あいさつ運動の輪」発行(年2回) | 学校・地域 |
| 4 運動の標語募集・シール化等広報 | 学校・地域 |

目と目が合った時の喜び！

西野川小学校 PTA 会長 亀ヶ谷 豊

先日、朝の薄暗い時間に家を出て一時間散歩をしました。はじめはウォークマンで音楽を聴きながら、途中電池が無くなったのでイヤホンを外して風景を眺めながら歩いていました。向うから歩いてきたおじさんと目が合ってお互いに“おはようございます”と知り合いではないのですが、挨拶をしたことで嬉しい気分で朝日を浴びながら歩けました。好きな曲を聴いて歩くのもいいけど、人との出会いがあるような時には、音楽なしがいいなと感じました。

月2回のあいさつ運動の時でも子どもたちの目が自分の目と合わないときさびしい気持ちになります。多くの子供達に朝の校門に立ってもらい、目を合わせてあいさつをする喜びを知ってほしいです。上手くあいさつが交わせたその日はいい気持ちで過ごせ、また他人に優しく接することができるからです。毎日がそのように過ごせますように！



H24.3 8号-3

人と人とのつながりの第一歩！

野川中学校 PTA 会長 白井 裕一

「おはよう！」「おはようございま〜す！」「今日はいいい天気だね〜！」「今日は寒いね〜！」、地域の皆様の協力を得て始めた朝の挨拶運動。

今では野川にある全ての小中学校で実践されています。小学校だけで終わらず中学校に行っても同じ「あいさつ運動」が行われている。また独自の取り組みとして10年以上前から登校時の挨拶を行っている学校もあると聞きます。

この挨拶を小中学校9年間継続し、それが習慣となっていく、地域全体が一体になって子どもたちを育てている。なんて素晴らしい活動でしょう。あいさつは人と人との繋がり第一歩です。昨今はその繋がりが薄れ政治家やマスコミなどが度々使用する「絆」という言葉が虚しく響く！？今日この頃ですが、「絆」を「言葉」ではなく「行動」で示す！この素晴らしい活動に協賛し子どもたちを育てて頂いている地域の皆様や学校の先生方に改めて保護者を代表し、お礼申し上げたいと思います。「ありがとうございます」！！

あいさつ運動の“すこし先”

近所付き合いの少ないひとり暮らしの高齢者の方が、ある日の早朝、自宅玄関先で倒れました。助けを呼ぶ声で異変に気付いたご近所の方々が、すぐ救急車を呼び病院に。入院が長期になると解った段階で、ご近所の方々が動き出し、家屋の防犯確認、新聞購読の中止連絡、郵便物の保管、草むしり、パトロール中のお巡りさんに見回りをお願い。ここには、よくある住民同士の交流不足は些かも見えず、この「さりげないけど大切なお節介」は、倒れた方の親類縁者が来られるまで二カ月間にわたり継続されたのです。

そうした見守りは、地域包括支援センターからの病院や親類の情報が近所のキイパーソンに伝えられたことも支えになったかもしれません。いずれにしても、「現代版向う三軒両隣の絆づくり」がこのように既に地区で機能しているところもあるのです。見えてきた形を地域全体に広げたいものです。（自治会員）

H27.10 15号-2

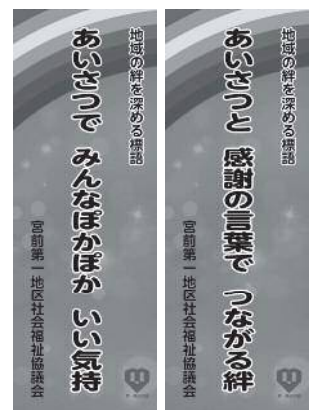
絆づくり 社協の大きな役割！

宮前第一地区社会福祉協議会

会長 青木 寅治

地域の皆様にご協力を頂いております宮前第一地区社会福祉協議会は、町会・自治会、民生委員・児童委員、保護司、社会福祉施設関係者、学校関係者、其他のご協力を得て運営されております。

主な事業は、高齢者の食事会、地域の音楽会、親子で楽しむおはなしの会、広報紙の発行、ちょこっとベンチの設置、高齢者のバス旅行など行っております。これらの事業は、地域の連携、交流を深めることなどを目的としております。その財源は、皆様にご協力をいただいております賛助会費、町会・自治会の助成金、福祉祭りの収益金等で賄っております。今、地域で一番必要としていることは、高齢者の問題（独居高齢者、認知症、孤独死）だと思っています。そのため地域では皆様のご協力により地域の絆を深め、互助社会をめざさなければならぬと思っております。最後に自治会等で以前より進めております「あいさつ運動の輪」は地域の連携、絆を深める原点だと思っています。



標語パネル（地区社協編）

H23.3 6号-2

H26.3 12号-2

「割れ窓理論」と安全で快適なまちづくり — ソフトとハード面から —

「窓ガラスの割れているのを放置しておく、他の窓ガラスも壊され、やがて建物全体が荒廃し、犯罪の温床になる」。これは米国の犯罪学者ジョージ・ケリング博士の提唱した「割れ窓理論」です。

この理論を実践した有名な例は、ニューヨークの地下鉄です。落書き消し大作戦、無賃乗車の取り締りにより、きれいで安心して乗れる地下鉄に変貌。日本のケースでは東京ディズニーランドが挙げられています。従業員がゴミをこまめに拾ったり、ちょっとした傷でもペンキを塗り直ししたりすることが来訪者のマナーの向上に繋がっているとのこと。

当自治会でも「割れ窓理論」を意識して、パトロール等のソフト面に合わせてハード面で、ゴミ収集場所の整頓、放置自転車の撤去、公園の草取り・花壇づくり、さらには防犯灯の新設・交換等に地域の人と一緒に頑張っています。特に「この2年、防犯灯がかなり明るくなったね、犯罪防止につながるよ!」との声が多く聞かれます。

防犯灯に係る工事内容	H21	H22
防犯灯の新設 (LED, 新省エネ42W等)	32	16
老朽化等での交換 (LED, 新省エネ42W等)	26	52
その他 (球切れによる蛍光管・グロー交換等)	58	29

H30.3 20号-2

宮前警察署との合同防犯パトロール — あいさつの飛び交うまちに犯罪なし —

昨年10月12日「神奈川県安全・安心まちづくり旬間」に合わせて、宮前警察署、宮前区役所の指導の基に、自治会、西野川小学校PTA、野川こども文化センター等30名が、2班に分かれてパトロールを実施。

泥棒が犯行をあきらめる理由として、「近所の人に見られたり、声を掛けられたから」を一番目に挙げているとのこと、やはり人の絆やつながりの強い地域は、空き巣などの犯罪の発生が少ないとのこと。その意味でも、公園の樹木の剪定やゴミ置き場の清掃、放置自転車の撤去などのきれいな街づくりに努めることが犯罪の温床化を防止することにつながります。



パトロールの心得



青色回転灯車と合同パトロール

公園の安全でうるおいのある生活空間づくり

野川台には、大小6つの公園があります。それぞれの立地と広さによって使われ方も特色があります。例えば、第二公園は、乳母車を引いた若いお母さん方の交流の場、第三公園は、高齢者の健康体操の場、第四公園は、どちらかと言うと多目的で、子ども達の遊びの場、夏のラジオ体操の場、お神輿の休憩の場であったり……。そうした子どもからお年寄りまでのライフステージに合った空間利用を支えているのが、皆さんと各公園協議会と自治会です。

今年度も、年3回美化清掃活動を行い、延べ472名の多くの方の参加を得、70L入りのゴミ袋478袋にもなりましたが、最近は、犬の放し飼いやフンは少なくなりましたが、まだカップラーメンなどのゴミの散らかしや粗大ごみの放置が見られます。

“ゴミがゴミを呼ぶ”という悪循環や犯罪の温床にならうように皆さんと一緒にパトロールを含め、引き続きゴミを捨てにくい雰囲気づくりと樹木の剪定、花壇づくり等美化に努めていきたいと思ひます (事務局)。



心にうるおいを!



親子一緒に落ち葉集め!

H29.3 18号-2

“オレオレ詐欺”の被害にあわないために!!

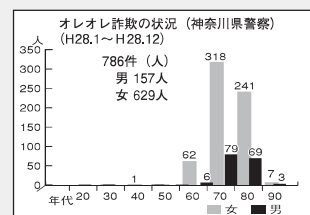
最近、野川地域にも不審な電話がかかってくるようです。地域や隣近所の人とお互いに注意し合ひましょう。

- (1) 留守番電話を設定しましょう
- (2) 知らない番号に出ない
- (3) 家族に必ず確認し、警察にも連絡しましょう
- (4) 面識のない人にはお金を絶対渡さない

(宮前警察署 044-853-0110)



オレオレ詐欺見破りDNA作戦 (神奈川県警察)



オレオレ詐欺の年代別件数

H22.3 4号—2

H26.10 13号—3

阪神・淡路大震災の教訓

—いざという時に頼れる近隣の力—

「阪神・淡路大震災では、6千人を超える人が犠牲になったが、要救出者3万5千人のうち、約8割の2万7千人が、家族や近隣住民により、救助されたと言われている」（「巨大地震」より）

このことから、一刻を争うような災害時の救出活動は、日頃から隣近所の人たちが、声掛けや見守りなどお互いに知り合っていることが、いざという時の助け合いの大きな力になることが、改めて認識されました。その意味で究極の防災対策は、究極の福祉対策とも言われています。

H23.10 7号—3

東日本大震災の教訓“絆”の再認識

3月11日発生した未曾有の東日本大震災。地域の人の「絆」の強さが、色々な形で報道されています。

私たちも、日頃からお互いに助け合い、支え合うことが災害時のみならず、その後の生活の中でもどれほど大切か改めて認識させられました。

阪神淡路大震災の教訓を踏まえ、全国的に地域での支え合いの場づくりが行われ、中越地震の被災地の新潟県では、「地域のお茶の間」づくりが集会所等で進められています。私たちの住む野川では、地域福祉の先進的取り組みとして、孤立しがちなお年寄りや子育て中の母親等がご近所単位で気軽に寄りあえる「ダイヤモンドクラブ」が40近く誕生しています。そうした身近なつながりは、いざという時に一番頼りになります。その意味でもさらなる開設を願うとともに、住民同士が日頃からあいさつを交わし顔見知りの間柄になる「向う三軒両隣」の関係づくりが再認識されています。それは究極の防災活動とも言えます。（事務局）

H25.3 10号—2

人間とは人と人との間柄的存在で、共に生きる関係！

東日本大震災からもうすぐ2年。改めて亡くなられた方に哀とうの意を表しますとともに被災された方に心からお見舞い申し上げます。

あの日、車や家をさらっていく津波、そして破壊されていく街の様子を映像で目の当たりにして、誰しもが、地震・津波の恐ろしさ、自然の力には、人間は無力であることをまざまざと思い知らされました。同時に今日がコンビニやインターネット社会である故に、とすると一人でも生きていけると思いがちな我々にとって、震災を契機に、改めて家族や地域の絆の大切さを再認識させられました。

昭和初期に「古寺巡礼」や「風土」などの著書で知られています和辻哲郎氏がある書で、「人間とは、人と人との間柄のうちに存在し、共に生きる関係にある・・・」という旨のことを記していたことが思い起こされます。

防災訓練と近隣とのつながり

「災害は、忘れた頃に来る」という寺田虎彦の戒めの言葉を思いつつも、近年、「30年以内に80%の確率で起きる」という報道に接すると地震はいつ来てもおかしくないと感じている方も



多い。今年の2月、おやじの会が音頭をとって、宮前消防署等の協力を得て、野川台自治会、西野川小・PTAが一緒になって親子や地域の人の防災訓練を実施。起震車や煙の体験、消火訓練、心肺蘇生等の講習会に参加した。体験したお母さんからも「本当に起きた時のことを考え、前もって家族で話し合うよいきっかけになった」や「いざという時に一番頼りになるのは、家族、隣近所だよ!」という声が聞かれた。阪神淡路大震災の教訓を思い起こし、日頃から隣近所であいさつを交わし、顔見知りの間柄にあることが大切と言える。

H30.10 21号—2

大地震に備えてあなたも、私も！

宮前区総合防災訓練実施

9月9日、野川小学校で、野川中学校区合同避難所運営会議と宮前区自主防災組織連絡協議会 宮前区役所主催の防災訓練が、私たち野川地域の町内会、自治会等の協力のもとに開催されました。

特に冒頭のあいさつの中で、今回は、高齢者から子どもまでが参加できる訓練にしたいとお話があり、過去の地震の教訓や首都直下地震発生の切迫性を踏まえ、20近くの訓練を楽しみながら体験しました。

体育館では、避難所の開設・運営や応急救護訓練、校庭では、消防隊員による降下訓練の披露の他、初期消火、起震車による地震体験、炊き出し等の訓練を自助・互助・公助のもとにみんなで実施しました。

特に過日発生した震度7の〈北海道地震〉の直後なのか、起震車に多くの家族連れが順番待ちをしていました。体験された方から、「備蓄用品を揃えておくことも大事だが、地震の怖さを子どもも大人も体に覚えさせておくことも必要ですね!」の声も聞かれました。今日の訓練を通じて、日頃の近所のネットワークづくりの大切さが浮き彫りになった一日でした。（事務局）



起震車による地震体験



中学生による簡易消火訓練

あ と が き

私たちが、先輩方と一緒に、小中学校であいさつ運動を始めてから12有余年を過ぎようとしています。当時7歳の小学校1年生は19歳に、中学1年生は、もう25歳になっています。

執筆された小学校の校長先生からは、電車の中で卒業生に会い自然に笑顔であいさつをし合え、嬉しかったこと、中学校の校長先生からは、引っ越しの業者の若い女性が、野川中卒であることが分かり、話が弾み「野川中バンザイ！」と心の中で叫んだこと等の嬉しい思いを披露して頂きました。

またPTAの役員はもとより地域や外部の人からは、野川の小・中学校に行った時、児童・生徒からあいさつされ、清々しい気持ちになったという話もよく聞かれます。同時に中学校の先生の思いとして、部活動の先生からは、「生徒の地域等での色々な活動は、成績を上げることも、上手になることも大事ですが、やはり自分たちも頑張り、地域に愛され、一員として一緒に楽しみたいという気持ちが心の底にあるのですよ」と話してくださいました。「私たちが地域の人」であるように小・中学生もあいさつ活動等を通じ、人と人とのつながりやその展開の中で、例えば地域清掃や福祉活動、吹奏活動、競技活動等の一端を通じて「地域の中の学校・生徒」であることを私たちも再認識させていただき、心温まる思いがしております。

さらには、あいさつ運動の根っ子のお話です。大都会では「隣は何をする人ぞ!」というように、お互いにあいさつをする習慣がともすると忘れがちになっているように感じられますが、「はじめは形から始まったあいさつでも経験を重ねていく中で、自然と心を交わす機会も生まれ、人と人とのつながりができるのですよ」とのお話がありました。その意味でも、寄稿して下さった小林先生の「あいさつは、私が主役になれる」の言葉は、私たちの心に刻むフレーズのように思えます。

今回を機に、引き続き皆様の声やご協力を頂きながら、学校と地域が一緒になってあいさつ運動を進め、あいさつが自主と連帯の互助社会づくりの一助に一層繋がるよう努めていきたいと思っています。最後に改めて冊子作成に係わってくださった校長先生、諸先輩や協賛して下さった方々に改めて感謝申し上げます。

(冊子編集担当「支え合う福祉の風土づくりを進める会」事務局 鈴木 邦男)

支え合う福祉の風土づくりを進める会の会員（会設立H23、4）

団体名	氏名	団体名	氏名	団体名	氏名
野川台自治会長	山本 友彦	西野川小おやじの会会長	佐藤 達博	民生委員	辻本 勤
野川町内会長	白井 哲夫	一葉会	山本 友彦	野川中学校PTA会長	亀ヶ谷 豊
野川南台自治会長	庄司 幹夫	青少年指導委員	小野瀬朋子	野川小学校PTA会長	平野 洋一
野川西団地自治会長	山川美恵子	シニア同友会	根本 春吉	西野川小学校PTA会長	石渡 圭輔
すずの会代表	鈴木 恵子	パトロール会	高尾 孝幸	南野川小学校PTA会長	高野 貴生
協力者：野川中学校長・森島烈、野川小学校長・藤生豊、西野川小学校長 小野瀬三智子、南野川小学校長・野村智					
事務局（野川台自治会内）：事務局長・鈴木邦男、次長・前之園泰子、辻本勤					

協賛団体等名一覧（本小冊子作成に当たり、協賛等協力していただきまして有難う御座います。）

青木寅治、(有)飛鳥興業、金沢屋、(社福)クロスハート、(社福)寿楽園、(株)露木建設、手塚文雄、(株)パイプ山陽、(社福)富士見プラザ、宮前スイミングスクール、野川小学校 PTA、西野川小学校 PTA、南野川小学校 PTA、野川中学校 PTA 他

(名称は、あいうえ順)

平成30年度版（「小冊子」）
「あいさつ運動と地域社会」

—— 見えてきたあいさつ運動の姿 ——
野川地域の小・中学校のあいさつ運動から

平成31年 3月20日 発行
（宮前区まちづくり協議会資金支援事業）

発 行：野川町内会、野川南台自治会、野川西団地自治会、
野川台自治会

編 集：支え合う福祉の風土づくりを進める会（野川台自治会内）
〒216-0001 川崎市宮前区野川3013-7（鈴木宅）
TEL 044-766-2004

印刷所：文明堂印刷株式会社 横浜営業所
〒232-0015 横浜市南区共進町3-54-1 佐藤ビル1F-B
TEL 045-731-1441